

地域循環型ミライ研究所

アニュアルレポート 2023

 **NTT東日本**
Circular Society Innovation Institute

 **NTT東日本**

2023

地域循環型ミライ研究所 アニュアルレポートの発刊にあたって

地域循環型ミライ研究所を設立して、今年2月で1年を迎えます。

これまで、我々の活動にご期待をお寄せいただいた地域・団体の皆さま、歩き始めたばかりの研究所にさまざまな助言・ノウハウを授けてくださった先行者の企業・有識者の皆さまに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。どうもありがとうございます。

地域の資産や魅力(文化・食・自然など)を活かして、地域の新たな価値創造に挑み、地域が持続的に発展し、夢や希望が感じられる社会を創るために、ヒト・モノ・カネ・データなどの地域内外の循環を実現する。地域循環型ミライ研究所は、そのようなミライをめざして、地域とともに歩む地域シンクタンクとして立ち上がりました。

その活動は緒に就いたばかりであり、日本各地で悩み、奮闘されている地域の皆さまの課題解決や価値創造の取り組みのお役に立つため、これからやるべきことは多くあると考えています。

それでも、1年足らずのうちに、研究所らしい取り組みや成果が生まれつつあります。

このたび、その活動の主なものをレポートにまとめましたので、ご覧ください。

祭り文化のデジタル保存・継承、メディア芸術による地域活性化、地方圏におけるワーケーションを通じた関係人口の創出など、文化・歴史・自然など地域の魅力を起点として人の関わりや生きがいを創る私どもの活動、そして私どもがめざす地域のミライの一端を感じていただけるかと思えます。

その取り組み内容は、これまでのNTT東日本らしくない、と思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、それこそが、NTT東日本グループとこの研究所の新たな挑戦であり、日本の未来を創る一歩であると信じています。

2年目を迎える地域循環型ミライ研究所の活動にもどうかご期待ください。

本レポートをご覧になって、改めてご関心をお持ちいただいた皆さまは、ぜひ地域の価値創造を進めるパートナーとして当社を選んでいただけますと幸いです。

地域のミライをともに創っていきましょう。

2024年1月
NTT東日本 地域循環型ミライ研究所
所長 飯塚 智



地域循環型ミライ研究所が掲げる キーメッセージ



Future Lab 地域循環型ミライ研究所
もっと、つなげたいものがある。

日本各地の自然を、文化を、本気で未来につなげたい。

世界に誇れる日本の魅力を発見し、広く届けたい。

地域循環型ミライ研究所は、そんな想いを持つ人の仲間になりたい。

地域の魅力と地域を想う“あなた”をつなぐ未来が今はじまる

https://www.ntt-east.co.jp/regional_circulation/



地域シンクタンク「地域循環型ミライ研究所」の活動

①地域の資産・魅力の調査・研究

各地域の根底にある「文化」「食」そして「自然」「歴史」といった資産や魅力の調査・研究を通じて、その土地に根差す古来の魅力、地域の人も意識していない隠された魅力を“再発見”します。

②地域のプレイヤーをつなぐ

さまざまな技術を持った人、地域で活躍されている人など、キーパーソンとのネットワーキングを行い、自治体、コミュニティ、NPO、住民、地域企業など、地域と共生・共創して地域の魅力や活動の発信に取り組みます。

③政策の立案・提言

調査・研究から得られた地域の資源・魅力を、海外・外部視点も取り入れデザインすることによりキラリと個性を光らせ、地域ニーズや国策なども捉えた仮説を構築し、政策の立案・提言を行います。

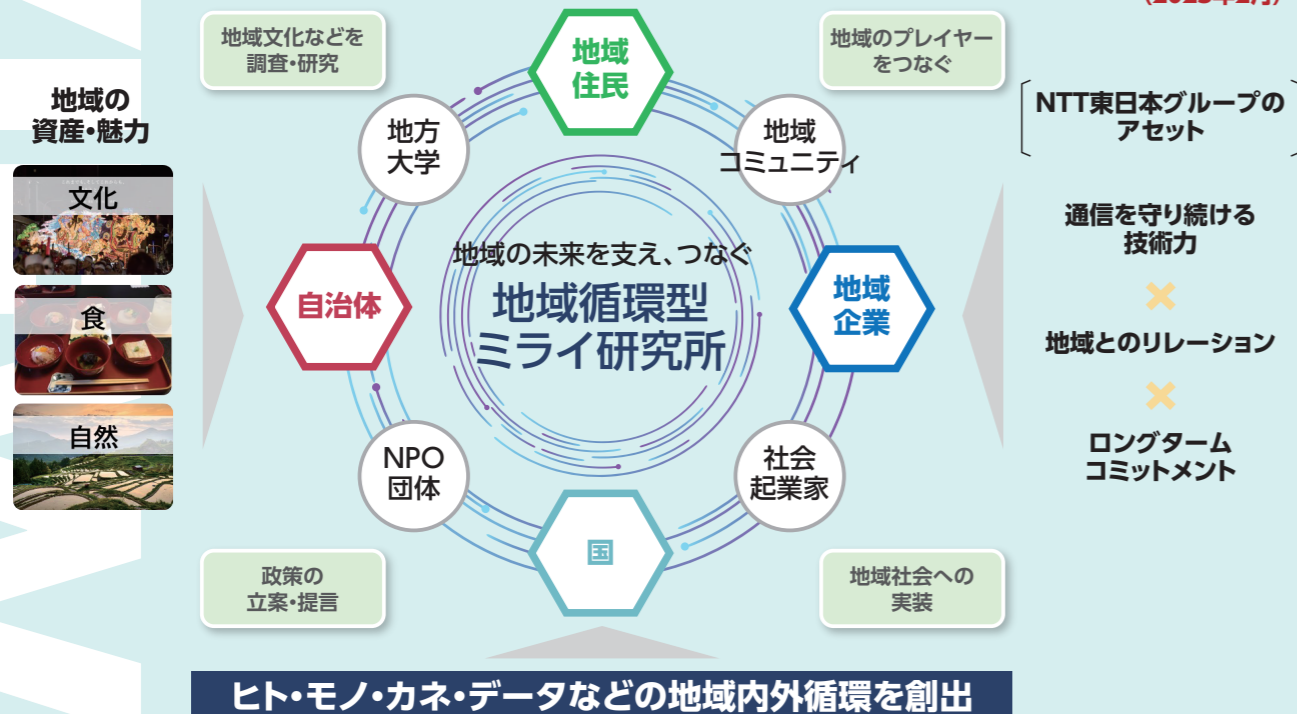
④地域社会への実装に向けた支援

地域への提言に留まらず、提言内容が地域で実装されるために、デジタルの力も活用しつつ、ロングタームで伴走します。

これらの活動を通じて ヒト・モノ・カネ・データが循環して新たな地域価値を創り出す地域循環型社会の実現をめざします

図表 地域循環型ミライ研究所の設立

皆さまと共に地域の新たな価値創造をめざす“地域シンクタンク”を設立 (2023年2月)



地域循環型社会の共創に向けて

活動の方向性

地域循環型ミライ研究所では、「地域の魅力と地域を想う人々をつなぐ研究所」というミッションを掲げ、日本各地にあるさまざまな資産や資源、地域の魅力を活かして、ヒト・モノ・カネ・データが循環して新たな地域価値を創り出す地域循環型社会の共創に取り組んでいます。

その土地に根差す地域の固有の魅力を、地域に住む/関わるヒトとともに高め、10年後の地域づくりにつなげるとともに、10年後のシビックプライド(地域に対する市民の誇り)を醸成し、継承することに貢献します。

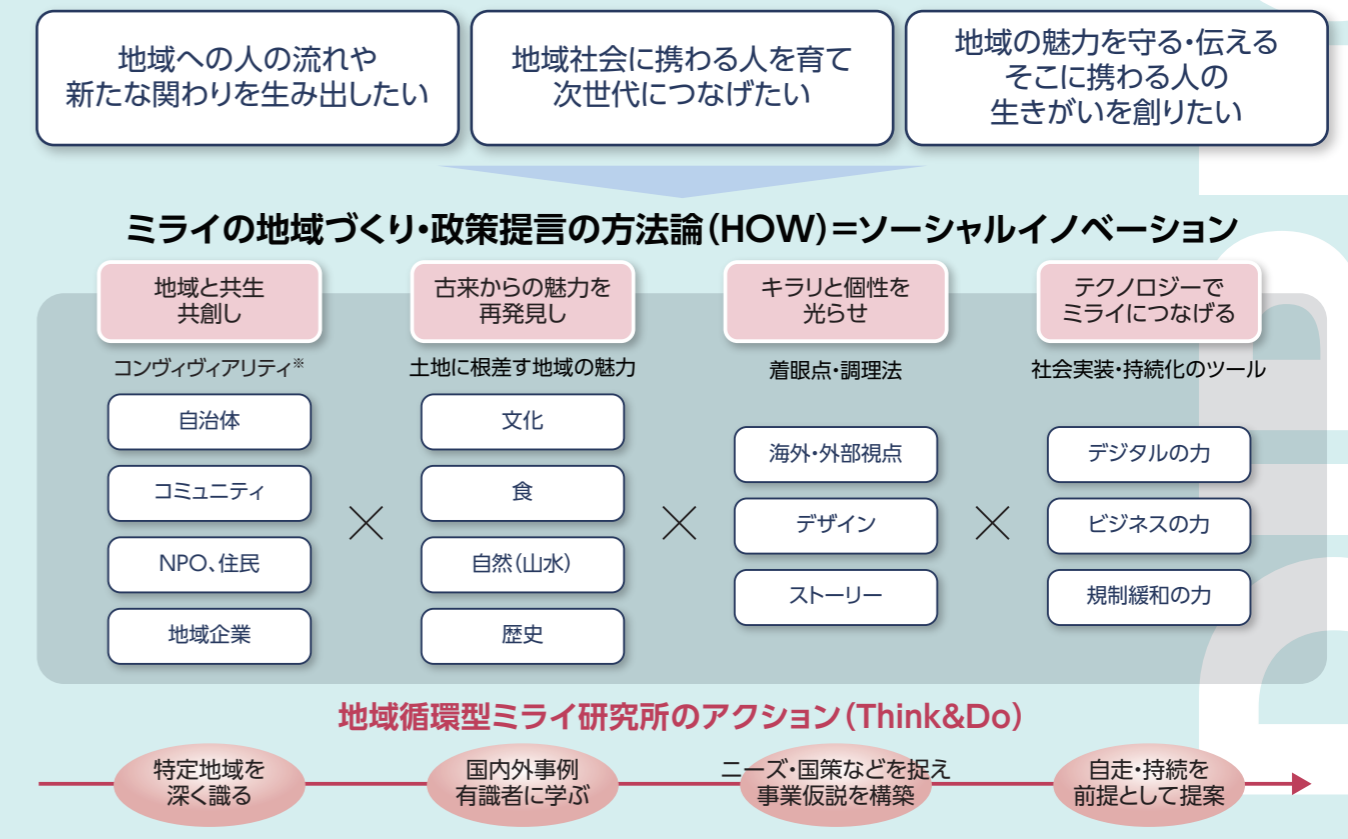
そのために私たちがめざすのは、人の流れや新たな関わりを生み出すこと、地域社会に携わる人を育て、次世代につなげること、地域の魅力を守る・伝える・そこに携わる人の生きがいを創ることです(図表)。

2023年の取り組み

文化の保存継承・活性化	
地域の祭りの保存と継承	P.05-06
メディア芸術による地域活性化	P.07-08
地域に関わる人の流れの創出・盛り上げ	
地域の関係人口創出	P.09-10
社員の地域貢献活動の盛り上げ	P.11-12



図表 地域循環型ミライ研究所の活動の方向性



地域の祭りの保存・継承に関わる

地域の祭りの担い手に関する意識・動向調査

地域の祭りの保存・継承への貢献を目的に「afterコロナ時代における祭り・イベント関係者の動向・意識調査」を実施。調査結果から判明した祭り運営におけるさまざまな課題に対し、デジタルの活用を中心とした新たな取り組みを実践することで、地域の祭りの保存・継承をめざします。

株式会社オマツリジャパンへの調査協力

NTT東日本は地域循環型社会の共創に向けた活動として、地域に根差す祭りへの参加や支援などを行っています。

地域の祭りの保存・継承に貢献することを目的とし、祭り運営プロデュースなどの事業を行う株式会社オマツリジャパンと共同し、「afterコロナ時代における祭り・イベント関係者の動向・意識調査」に取り組み、同調査のうち、祭りにおけるデジタル活用の可能性と課題に関する調査を実施しました(図表)。

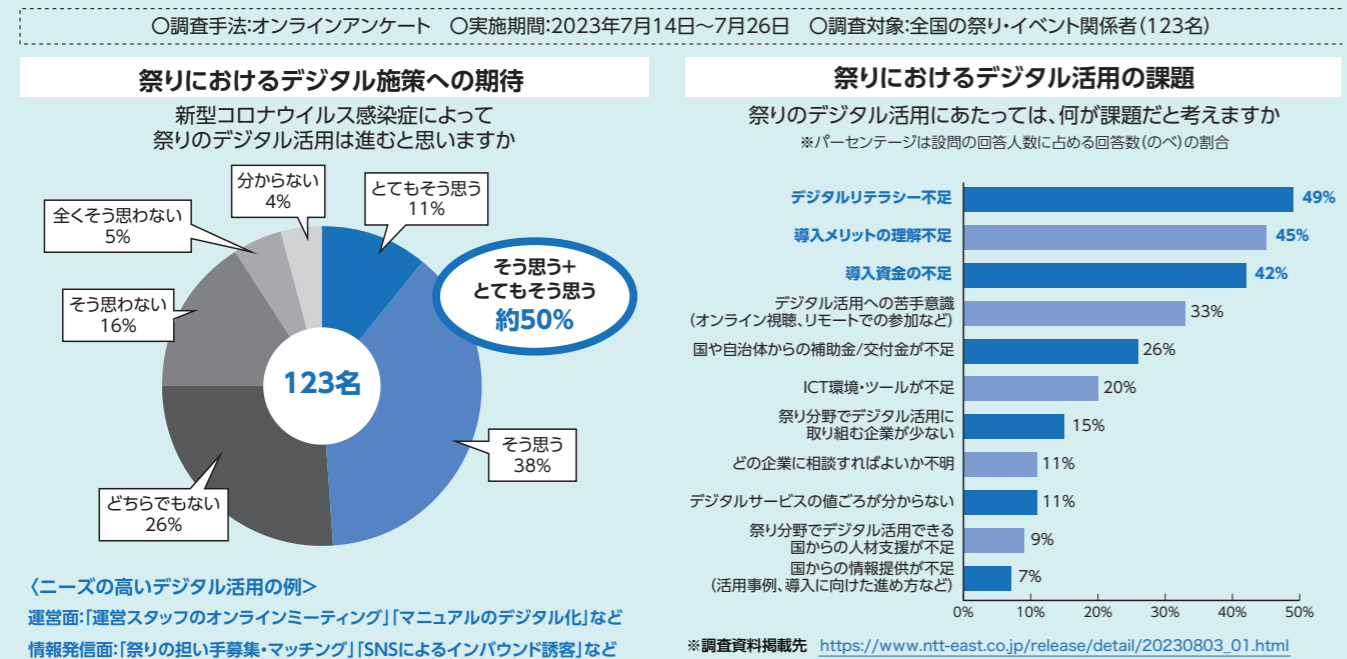
本調査は、2023年7月14日～26日の期間に全国の祭り・イベント関係者に対して実施しました。その回答結果から、回答者の約50%が新型コロナウイルス感染症の影響により、祭りのデジタル活用が進むと考えていることが分かりました。

高まるデジタル活用のニーズ

新型コロナウイルス感染症の影響により、運営面、発信面ともにデジタル活用のニーズは高まる一方で、活用するための情報・ノウハウ不足や、導入にあたっての資金不足などの課題が見られました。また、課題・ニーズは、祭りの開催規模によっても異なることから、今後は、このような点なども考慮しつつ、多様な関係者を巻き込みながら、きめ細やかな情報支援や継続のための資金確保などの仕組みづくりなどが必要だといえます。

地域循環型ミライ研究所は本調査を踏まえ、デジタル活用を中心に祭りを取り巻く諸課題を解決することで、各地域特有の素晴らしい文化資源である祭りを活性化するとともに、保存し、次世代に継承していくための取り組みを行っていきます。

図表 afterコロナ時代における祭り・イベント関係者の意識・動向調査



取り組み

祭りの映像アーカイブ化

デジタル技術を活かした取り組みの中で、祭りの映像アーカイブの作成・発信活動を行っています。各地域の文化である祭りをアーカイブ化し、さまざまな取り組みに活用することで、祭り文化の継承や新たな価値創造への寄与をめざします。

注目されるCulTech

我が国ではまだまだあまり馴染みのない言葉だと思われていますが、海外ではデジタル技術で文化・芸術作品の価値を高めるCulTech(Cultural Technology)という言葉が注目されています。日本でもデジタル田園都市国家構想実現会議において、デジタル技術を活かし全国各地の埋もれた文化資源を掘り起こして地方創生につなげようという議論が展開されており、CulTechによる地域振興の取り組みが各地で芽生えつつあります。

NTT東日本グループの取り組みでも、NTT Art Technology社による葛飾北斎の「八方睨み鳳凰図(はっぽうにらみほうおうず)」の高精細デジタルリマスター版の制作・展示など、デジタル技術を活用して地域の観光振興に貢献する事例が生まれています。

地域循環型ミライ研究所としても、このCulTechに

よる地域振興の取り組みをさらに盛り上げようと、日本各地の「文化」「食」「自然」「歴史」といった地域資源の魅力や課題を調査するとともに、文化・芸術領域でのデジタル技術の活用にも挑戦しています。

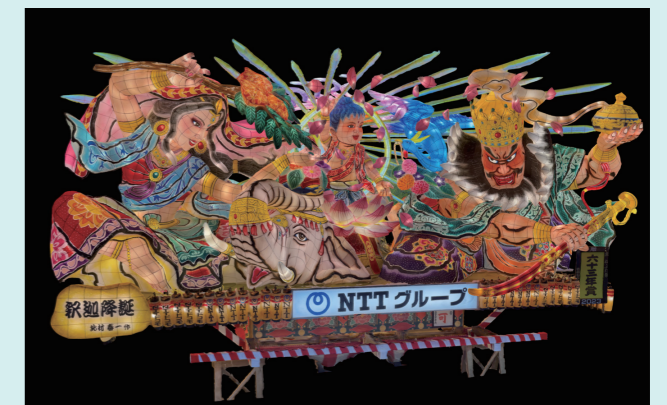
祭り映像のアーカイブ化

CulTechの取り組み事例の1つが祭りの映像アーカイブの作成・発信です。日本全国に数多くあり、各地域に根差す祭りは、その地域の文化やシビックプライドを体現する重要なイベントであり、NTT東日本グループにおいても各地の祭りへの参加や運営の支援に取り組んできました。

地域循環型ミライ研究所では、各県に拠点を置くNTT東日本の支店の協力を得て、各地の祭りのデジタル映像を撮影・保存・編集・発信することに取り組んでいます。この取り組みを継続、拡大していくことで、新たに祭りの魅力を知った地域内外の住民の祭りへの参加や運営協力・支援など、地域の祭りの保存・継承に必要なヒト・モノ・カネ・データの循環創出につなげます。また、祭りの保存・継承により、地域住民のシビックプライドの醸成にも貢献していく考えです。



前橋まつりアーカイブ(上) / 高崎まつりアーカイブ(下)



青森ねぶた3D

CONCEPTS

メディア芸術データベース活用コンテストへの参加 「地域メディア芸術案内所(仮称)」構想を提言

文化庁のメディア芸術の振興施策であるメディア芸術データベース活用コンテストに参加し、優秀事例賞とテーマ該当事例賞をダブル受賞。メディア芸術作品を地域資源の1つとして位置付けたアイデアの実現を通して、メディア芸術の振興および地域活性化をめざします。

メディア芸術データベースとは

日本のメディア芸術の振興をめざし、2010年度から国内メディア芸術に関する調査を行ってきた文化庁。その成果を利活用し、メディア芸術の作品情報を広く一般に向けて公開しているのが「メディア芸術データベース」です。

マンガ・アニメーション・ゲーム・メディアアートの4分野の作品情報や所蔵情報をデータベースとして整備。メディア芸術の検索のためのデータを収集・管理するだけでなく、アクセスや利活用がしやすいように情報を再構成したWebサイトです。

メディア芸術データベースは、メディア芸術作品が次の世代へと引き継がれていくために、いつでも誰でもどんな時でも、作品や知りたい情報に容易にたどり着けるようなデータ基盤となることをめざしています。

■各分野のデータ提供件数(2022年1月現在)

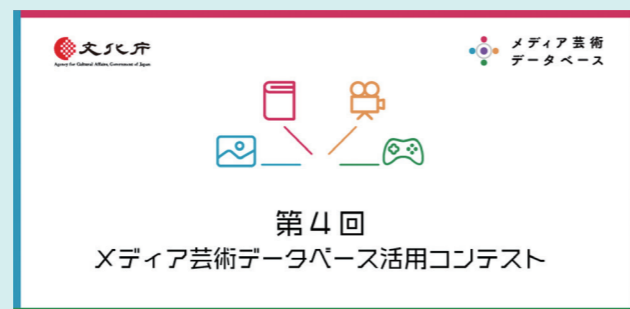
- マンガ分野 50万件以上
- アニメーション分野 13万件以上
- ゲーム分野 4.8万件以上
- メディアアート分野 1.4万件以上

メディア芸術データベース活用コンテストへの参加

上記データベースについてユニークな着想で他のデータと掛け合わせて新しく作成されたデータなどを募集し、その面白さや社会的な活用可能性について探求するのが、メディア芸術データベース活用コンテストです。

2023年の第4回コンテストのテーマは「メディア芸術による未来社会における価値創造」。メディア芸術データベースを活用した新しいアイデアを考える2つの部門が用意され、地域循環型ミライ研究所はアイデア部門にエントリーしました。

コンテストへは、2部門合計で15件の応募があり、この中から事務局による一次審査を経て地域循環型ミライ研究所を含む9件がファイナリストとして選出されました。



第4回メディア芸術データベース活用コンテスト HPバナー

応募アイデア「地域メディア芸術案内所(仮称)」の事業構想

地域循環型ミライ研究所が提言したアイデアは、『メディア芸術データベースと、収蔵作品や作者にゆかりのある地域の歴史・文化・食・自然などの情報を結合させ、これを基盤として、交流人口、関係人口を増やすためのWebサービス「地域メディア芸術案内所(仮称)」を提供する』という構想です。

メディア芸術データベースに、収蔵作品にゆかりのある地域情報を付加し、作品から地域、地域から作品への「ヒト」の循環を生み出すことを考えています(図表)。

具体的には、作品に関連する地域の情報を提供する他、好きな地域から作品を逆引きできる機能を持つWebサービス(いわゆる「アプリ」)をつくることなどにより、「聖地巡礼」を後押しします。「聖地巡礼」というのは作品中に登場した場所を追体験として訪ねるコンテンツ・ツーリズムのことで、若者を中心に根強いブームとなっており、今や町おこしの重要なアイテムとなっています。

さらに、自治体や観光地域づくり法人(DMO)など

と協力し、地域の観光情報や土地に根付く文化や歴史などの情報を併せて提供することで、作品の「聖地」としてだけでなく、その地域の知られざる魅力も知っていただき、地域内外のヒトの流れの創出につながることをめざしています。

「地域メディア芸術案内所(仮称)」の提供により期待される効果は以下の3つです。

- **地域の交流人口・関係人口の創出**
作品に関連する地域の知られざる魅力に気づき、実際に現地を訪れ、地域のファンとなる、地域の交流人口・関係人口の創出
- **メディア芸術の振興**
興味関心のある地域から関連作品を知り、実際に作品を鑑賞し作品のファンとなる、メディア芸術産業の振興
- **メディア芸術データベースの認知向上**
メディア芸術データベースを本構想の中核に据えることによる、データベースの認知向上および意義の理解促進

アイデア部門の優秀事例賞・テーマ該当事例賞をダブル受賞

「地域メディア芸術案内所(仮称)」の事業構想は、メディア芸術作品を地域資源の1つとして位置付けたアイデアとして、地域の魅力の発掘と発信に大いにつながることを期待され、アイデア部門の優秀事例賞およびテーマ該当事例賞をダブル受賞しました。

本構想の実現に向けて

本構想は、アイデアの提言に留まらず、メディア芸術作品という魅力的な地域の資源を活用した地域活性化事業として、実現をめざしていきます。

実現に向けては、メディア芸術業界の有識者や地域DMO、また作品のファンの方々など関係するプレイヤーの皆さまとともに検討を進め、地域を訪れるきっかけづくりやメディア芸術産業の振興に貢献したいと考えています。本構想内容の詳細やプレゼンテーション動画は以下よりご確認いただけます。ぜひご覧ください。

地域循環型ミライ研究所では、本構想をはじめとした地域の交流人口・関係人口創出や、地域の文化・歴史などの魅力の継承など、さまざまな取り組みにチャレンジしていきます。



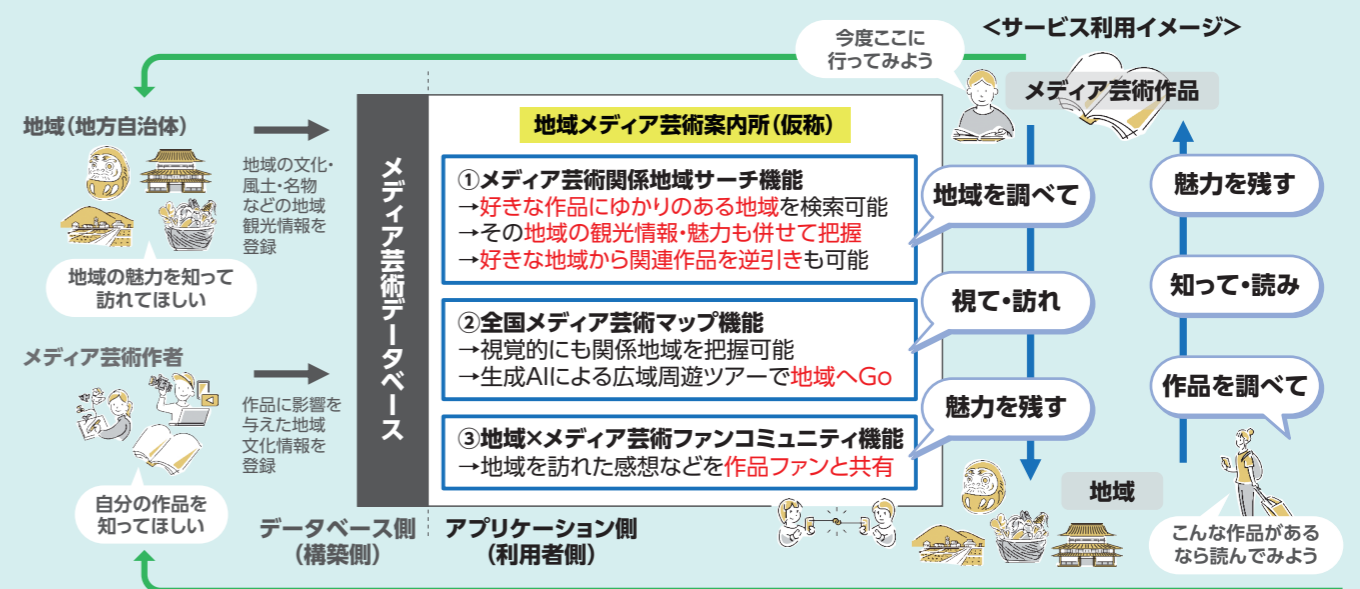
コンテストのプレゼンテーションを行った当研究所エバンジェリスト田中健人

第4回メディア芸術データベース活用コンテスト審査結果



<https://www.mediaarts-db-contest.com/results>

図表 「地域メディア芸術案内所(仮称)」による地域交流人口・関係人口の創出



関係人口創出に向けた “ワデュケーション”実証

地域循環型社会の実現に向けて、重要な要素である「ヒト」の循環に着目、その中でも、近年、地域との新しい関わり方として注目される関係人口の創出を目的に、新潟県の佐渡島でワデュケーション施策を実証しました。地域で本業の業務をリモートワークで行うとともに、地域産業の就業体験、地域の人との交流、文化などの学びを通じた地域愛の醸成により、関係人口の創出・拡大をめざします。

リモートワークを活用した ワデュケーション施策の実証

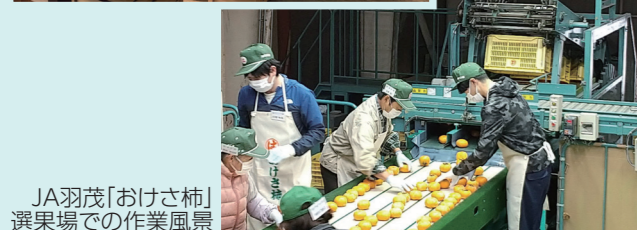
地域循環型ミライ研究所は、地域循環型社会の共創に向けて、NTT東日本グループなどの従業員と地域で暮らす人との交流や結び付きを深める施策を進めています。

その一環で、ワデュケーション(Work<仕事>+Education<地域のことを学ぶ教育>+Vacation<休暇>)を組み合わせた事業のことを指し、一般用語のワーケーションの一環として位置付けられる) 施策のモデル確立に取り組んでいます。具体的には、企業の従業員が地域を訪れ、リモートワークを活用して、現地で本業の業務を行うとともに、副業などにより、その地域の仕事を体験し、同時に住民との交流や、文化など地域の魅力にも触れることで、その地域への理解を深め、関係人口の創出などにもつなげるという取り組みです。

2023年10月～11月に、新潟県佐渡市、JA羽茂の協力のもと、NTT東日本と三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(以下、MURC)は、ワデュケーション施策が地域や参加企業にもたらす社会的価値・経済的価値について、有効性を検証しました。



「学校蔵」でリモートワークをする実証参加者



JA羽茂「おけさ柿」選果場での作業風景

実証で得られた成果 社会的価値・経済的価値

実証には、社内公募などによりNTT東日本とMURCから集まった17名が参加。3期に分けて、それぞれ4日間ずつ、佐渡市の廃校を活用した酒蔵の coworkingスペース「学校蔵」で本業の業務をリモートワークで実施するとともに、本業以外の時間を活用し、佐渡島の住民の皆さまとともにJA羽茂のおけさ柿選果場で「おけさ柿」の選定・箱詰め業務を体験する活動などを行いました。これらは地方紙やローカルTVでも取り上げられるなど、佐渡市や地元住民の期待の大きさを感じることができました。

実施後に行った参加者アンケートから、参加者の94%が施策に「満足」または「やや満足」、88%が幸福度について「とても上がった」または「やや上がった」と、肯定的な回答が得られました。また、「おけさ柿が地域住民のシビックプライドを醸成していると感じた」などの意見も挙がり、地域産業を通じた地域住民の皆さまの佐渡島への想いやシビックプライドにも触れることができ、佐渡島に対する地域愛の醸成にもつなげることが伺えます。

また、参加者の88%が、施策後も「佐渡産のものがあれば優先的に購入した」「ふるさと納税を申請した」など、佐渡島と経済的なつながりを持つ行動をとったことが分かりました。さらに、就業体験では210時間に相当する労働力を地域外から提供したことにもなり、施策を通じて、参加者の関係人口化を深めることで、受け手(地域)や出し手(企業・参加者)双方の社会的価値および経済的価値の創出につながる事が確かめられました。

ワデュケーション施策の課題

一方、ワデュケーション施策を継続実施する上で、いくつかの課題が浮き彫りとなりました。ここでは、その中でも本格展開・横展開にとって障壁となると想定される「宿泊」「交通」「プログラム」の3つの点につい

て述べます。まず、宿泊面では、機能性を持った宿泊施設など、普段通りの生活ができる環境の整備や宿泊施設の供給量。交通面においては、レンタカーの相乗りのみならず、シェアバイク、カーシェアサービスなど個人にとって利便性の高い移動手段の選択肢を増やすこと。プログラム面では、今回の施策の宿泊費・交通費を出し手側企業負担としているところ、横展開

に向けて、出し手側・受け手側双方が支援制度を整備することなどが課題として認識されました。

他にも、受け手側(地場企業、自治体)、出し手側(従業員、所属企業)双方において課題が確認されたことから、お互いの共通認識のもと、協働して課題解決にあたる必要があります(図表)。

図表 ワデュケーションの課題一覧

		ワデュケーション実施環境整備上の課題	ワデュケーション企画運営上の課題
受け手側	地場企業	<ul style="list-style-type: none"> 安定した通信環境・ネットワークのセキュリティ・モニター・キーボードなど機器設備 宿泊施設における交流スペース(サウナ・キッチンなど)、スポーツ・娯楽施設の拡充 交通整備(シェアバイク、カーシェアの設置)、佐渡島までの交通アクセスの改善 	<ul style="list-style-type: none"> 実施目的やニーズを認識した企画設計 ホテルなど施設を保有する組織や自治体などによる施策多数あるも、出し手企業のワデュケーションニーズは十分に把握できていない
	自治体	<ul style="list-style-type: none"> 飲食店の設置 ・宿隣にて、営業時間が長い飲食店、居酒屋、地域の食材を活かしたお店 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なイベントの企画、子ども向けのプログラムの用意 ワデュケーション就業体験の受け入れ先確保の簡易化 観光周遊ルートの発信 ・歴史(事前)学習⇒現地体験の流れなど
出し手側	社員	<ul style="list-style-type: none"> 役職や組織による参加のハードル、向き・不向きに対する公平性担保 子育て・介護などの家庭の事情に対する参加配慮 ・そもそもターゲットにすべきかの議論も必要 	<ul style="list-style-type: none"> 実施目的の不明瞭さや、仕事/休暇の線引きの曖昧さによる、利用への消極性の解消 ・ワデュケーションに「休暇(バケーション)」の要素を含む
	社員所属企業	<ul style="list-style-type: none"> ワデュケーション(副業)の社内制度整備 ・労務管理などマネジメントやワデュケーションの位置付け(休暇/福利厚生/通常業務)の仕組み・社内規定など セキュリティやトラブル発生へのリスク対応計画 リモートワークの長期化による社員間コミュニケーションの希薄化への対応 ・本業への影響を考慮した、職員同士の情報共有の在り方の再考 	<ul style="list-style-type: none"> 実施目的と成果の明確化による、予算獲得 地域のイベント時に合わせた施策建て、他企業との連携 就業体験の発掘、ラインナップの整備、事前学習などの組み込み プログラムの時間配分 ・本業のワーク時間確保など

ワデュケーションプロジェクトメンバーにより作成

デジタル活用型の関係人口創出モデル

最後に、本実証の結果を踏まえ、ワデュケーション施策が関係人口創出に寄与していくために取り組むべきことを提言しています。

- 多様な関係者と連携するための社会的価値・経済的価値の可視化、そのロジック確立
- 対象企業の拡大、さまざまな企業側ニーズに応える施策プログラムの設計
- 地域と企業・従業員側のマッチングの仕組みづくり、ワデュケーション実践者の拡大
- 地域の文化・共通言語の学びによる地域住民・コミュニティとの関係深化
- 空き家活用なども含めた滞在施設の整備などフィジカル面の支援
- 地域との絆を持ち続けるためのコミュニケーションサービスなどデジタル面の支援

これらを踏まえ、地域循環型ミライ研究所は、①リモートワークなどの“デジタル”を活用した働き方の

実践を地域への訪問契機としてポテンシャル人口を広げ、②実際に訪問して(リモート・副業)ワークと学びの“フィジカル”体験により、地域との関係を深化させ、③そして都市に戻った後は、“デジタル”活用によって地域との関係を維持・強化する、3STEPの「デジタル活用型ワデュケーション関係人口創出モデル」を提唱します。

今後、さまざまな関係者と連携し、モデルの確立・普及活動を進めていく考えです。



廃校を活用した酒蔵、coworkingスペース「学校蔵」

社員の地域貢献活動の推進による 地域との関係深化

—地域エバンジェリスト活動—

さまざまな分野において地域活動を行い、地域社会との接点を有する社員を“地域エバンジェリスト”として認定。地域エバンジェリストを介し、地域の課題や地域コミュニティ、活動者といった地域情報を広く収集するとともに、地域との関係を深めることで、地域の価値創造に役立てていきます。

地域社会を支える地域エバンジェリスト

NTT東日本グループには、約3.5万人の社員が在籍しています。地域の魅力を発見し価値創造に取り組むためには、全国各地にいる社員一人一人が、地域課題を自分事として捉え、その地域で見たこと、聞いたこと、課題に思ったことなどの情報を発信・共有することが重要です。

そのための仕組みとして、社員の地域活動への参加を後押しする「地域エバンジェリスト」の取り組みを開始しました(図表1)。NTT東日本グループには、業務外のプライベートな時間を利用して、さまざまな地域貢献活動に参加している社員が数多くいます。その活動内容は、野球やサッカーのコーチといった地域のスポーツ振興活動から、祭りの運営やオーケストラ、自然保護、文化の保存、学生・高齢者や障がい者の支援、子ども食堂の運営、住民参加型の委員会活動まで多岐にわたっており、その活動が地域社会を支えています。

地域循環型ミライ研究所では、熱い思いを持って地域社会の活動に参加している社員を「地域エバンジェリスト」として認定し、その活動を会社が応援する取り組みを展開しています。NTT東日本グループ24社に

参加を募り、7月に認定を開始、これまでに約300名の社員を「地域エバンジェリスト」として認定しました(図表2)。

併せて、社内では地域エバンジェリスト専用のコミュニティサイトを設置。コミュニティ内では各メンバーの地域活動やイベントの紹介、メンバー募集など、幅広い情報を発信しています。

社員の行動変容につながる 地域エバンジェリストの活躍

現在、地域エバンジェリスト認定者へのインタビューを実施し、それぞれの地域への想いや活動の背景、苦労している点などをヒアリングしながら、地域との関わりによって得られた良い影響、やりがいなどを「地域エバstory」として全社に発信する活動を進めています。これは、それぞれの地域で熱い思いを持ち地域振興に取り組んでいる社員の活動を紹介することで、他の社員に対しても「自分も居住エリアで何か行動してみよう」という行動変容を促す狙いがあります。

また、これまでの業務ではつかみきれなかった地域のリアルな課題の把握や、地域コミュニティで尽力している各地域のキーパーソンとの関係構築が推進されることを期待しています。

図表1 地域エバンジェリストのイメージ



*コレクティブインパクト：社会課題の解決に向けてさまざまなプレイヤーが協働すること

「地域エバ・サミット」の開催

今後は、地域エバンジェリストの拡大や活動の活性化を促すために、同種の活動に取り組む地域エバンジェリスト同士が集まるイベント「地域エバ・サミット」の開催も計画しています。

活動テーマごとに開催し、エリアを問わず共通的な地域課題の洗い出し、課題解決の共同検討、ビジネスの可能性の考察にも取り組んでいく予定です。

他にもさまざまな施策を企画・展開することで、社員の通常業務や地域活動における知見・視野の拡大、さらにはwell-beingの向上をめざしていきます。

各地で活躍する地域エバンジェリストの社員紹介



人材育成

ビジネス開発本部
営業戦略推進部

吉澤 尚史社員

吉澤社員は小樽商科大学で非常勤講師としてキャリア教育授業を実施。つながるキャンパス学生アドバイザー支援をしています。

「まずはふるさと、“北海道が好き”が想いとして強く、『北海道をどれだけ良くできるか』が自分の人生の中で価値が高いことだと気づき活動しています。大企業のリソースをどこまで地域に還元できるか、常に考えています」



商工会・青年会

青森支店
ビジネスイノベーション部
地域基盤ビジネス担当

馬場 龍彦社員

馬場社員は青森商工会議所青年部に所属。国土交通省が推進するエリアプラットフォーム実現に向けた政策提言活動を実施中です。

「地元“青森のため”well-beingに注力していきたいという想いで活動しています。NTT東日本のノウハウを活かして街づくりビジョンを提言したいです」

図表2 地域エバンジェリストの活動分野

活動分野(人数)		2023年10月25日時点
環境保全 (16)	ボランティア(清掃、森林保全など) フリーマーケット等リユース活動など	文化芸術 (41) 祭り運営、市民オーケストラなど
歴史継承 (5)	地域の伝承、祭りの継承など	食・農業 (5) 農業支援、マルシェ企画など
人材育成 (12)	企業人材育成支援、学生支援、高齢者ICT活用支援、プログラミング教室講師など	福祉 (14) NPO法人(障がい者支援、子ども食堂、親の会など)
スポーツ (142)	部活動、少年野球、サッカーコーチなど	観光 (5) キャンプボランティア、外国人観光客案内など
商工会・青年会 (7)	商工会青年部連合会・日本青年会議所など	自治体 (38) 住民参画型の委員会、自治会への参加、高齢者支援など
その他(35)	社労士、税理士、山岳連盟、PTAなど	

世界に誇れる魅力的な地域資源を活かして

地域に寄り添い伴走はロングタームで

地域循環型ミライ研究所は、地域密着で事業展開をしてきたNTT東日本グループの組織力を活かしつつ、各地域の拠点と連携しながら、小さくとも、目に見える成功事例の積み重ねを図っていきます。地域で実証事業を進めるにあたっては、時間をかけて地域の方々のお話を伺い、共感し、価値創造の取り組みの実装まで、ロングタームで伴走することを大事にしています。

CulTechを浸透させて日本全体の成長に

前述したCulTechという概念は、欧米諸国や台湾などに比べると、日本ではまだまだ浸透しておらず、文化とデジタル技術の融合には、これからさらに広がる余地が十分にあります。伝統文化に限らず、日本には世界に誇れる魅力的な地域資源がたくさんあります。それらをデジタル技術によって永く継承するとともに、より魅力的な発信・活用ができるよう取り組むことで、日本全体の成長にも寄与していきたいと考えています。

メディアプラットフォーム「note」で社外発信

地域における提言や政策の実装・伴走はロングタームで腰を据えて取り組んでいく一方で、シンクタンクとしての情報発信はショートタームで実施していきます。社外発信プラットフォームの構築においては、従来のNTT東日本公式ホームページに加え、2023年12月より、メディアプラットフォーム「note」にて、当研究所の公式ページを立ち上げました。当サイトでは、当研究所の活動ニュースの発信の他、研究所メンバーなどによる地域に関する調査や、地域エバンジェリストによる地域活性化活動など、地域を考え、地域とともに歩む取り組みをブログ形式でわかりやすく発信していきます。

終わりに

“分散し、循環し、持続する、新しい日本のミライ”を創るためには、目に見える社会課題への対応はもちろんのこと、私たちが、これまで当たり前のもので見過ごしがちだった文化、食、自然、歴史など、日本が世界に誇れる魅力的な地域資源に光をあてる必要があります。これは、設立から1年が経ち、活動を振り返って改めて強く感じる事です。そのためにも、私たち自身が、より多くの地域や人を訪ね、深い魅力に触れ、そこから得られたナレッジや気付きを、広く発信、シェアしながら、同時にNTT東日本グループ内にも展開、浸透させていくことが重要です。今は小さな一歩でも、やがてはあらゆる世代がいきいきと生活でき、夢と希望を持つことのできる地域循環型社会の共創という大きな取り組みにもつながっていく。地域循環型の“ミライ”を創ることをめざす「ミライ研」の活動にこれからも注目いただければ幸いです。

note 23

Future Lab 地域循環型ミライ研究所

もっと、つなげたいものがある。

メディアプラットフォーム

note

NTT東日本 地域循環型ミライ研究所

https://note.com/regional_mirai

Q: 取り組んでいきたいテーマ



所長
飯塚 智
Satoshi Iizuka

通信料金戦略やBB基盤整備、通信行政に長く携わり、新潟勤務をきっかけに地域の自然や歴史、産物、食文化に取りつかれる。美しい日本の各地域で、地域愛を原動力に魅力の発掘・発信などを通じて、新たな人の交流関係を創り、地域の活力を高めていきたい。



チーフエバンジェリスト
藤田 建次
Kenji Fujita

地域のしごと、文化、歴史、日常の記録、記憶をデジタルで継承し、新たな地域活性化の事業構想に活用していく。地域と地域外のプレイヤーとの共創を見据えた、関係人口など新しい人の流れ、循環の創出。そのための仕組み、仕掛けづくりを行ってきたい。



チーフエバンジェリスト
阿部 寛之
Hiroyuki Abe

12年前、長男の小学校入学を機に長野県に移住。教育移住や2拠点生活をよりカジュアルに選択できる世の中にし、都市部と中山間地域の人の流れを創出していきたい。



エバンジェリスト
原田 拓哉
Takuya Harada

日本の農山漁村地域ならではの豊かな地域資源を活かした体験や新鮮な食を楽しんでもらい、人の流れを生み出すような農泊やグリーンツーリズムなどを地域の方と一緒に企画し、ミライ研として国内外に発信していきたい。



エバンジェリスト
田中 健人
Kento Tanaka

地域の暮らしに根づく文化や歴史、地元住民の方との交流に地域の魅力を実感。外国人観光客など国外からみた日本ローカルの魅力にも注目し、フィールド調査を通じて人の流れの創出や2拠点居住を含めた地域の暮らしの在り方に関する調査研究に携わってきたい。



エバンジェリスト
水谷 考嬉
Koki Mizutani

日本に住みながらも、縁の遠いような日本の多彩な食(生活)文化を感じるきっかけづくり、発信する仕組みづくりなどを通して、皆さまの第二、第三の故郷を創出することで、地域の循環(人流・物流)に貢献していきたい。



副所長
川嶋 克之
Katsuyuki Kawashima

NTT東日本は全国津々浦々に世界最先端の通信サービスをお届けすることで地域社会を下支えしている。私たちは文化や歴史の研究を通じて、デジタル一辺倒ではなく、日本がいにしえより持つ美しさを踏まえた地域循環型社会を皆さまとデザインしていきたい。



チーフエバンジェリスト
中山 雄太
Yuuta Nakayama

地域の多様な食文化/酒文化の掘り起こしと、これによる地域価値創造の実現。食料の安定供給、良好な景観維持、人と人、人と自然が触れ合う場となる里山を中心とした地域づくりに貢献していきたい。



エバンジェリスト
蛭田 正隆
Masataka Hiruta

地域のシビックプライドを形成する文化、産業の掘り起こし、保存・発展に向けた仕組み、新たなコミュニティの形成。これからの地域を支える関係人口の創出に向けた新たな取り組み(人材マッチング、ワデュケーション推進、DX活用)へチャレンジしていきたい。



エバンジェリスト
戸井田 翔
Sho Toida

町おこしとして地域に眠る資産である昆虫を通じた地域価値創造に焦点を当て、関係人口創出や環境保全の教育に貢献。持続可能な共生モデルを提案し、生態系のバランスと地域の発展を促進する研究に取り組んでいきたい。



エバンジェリスト
本間 愛佳
Aika Honma

地域の暮らしに根づく自然・食・歴史文化などの魅力を再発見し、次世代につながる持続可能なまちづくりに取り組む。特に文化領域におけるミュージアムツーリズムやエコツーリズムなどを通じて地域の垣根を越えた循環を創出することでより多くの「地域愛」が生まれる社会に貢献していきたい。

<Special thanks>

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 川合 悠介 Yusuke Kawai | 千葉 一深 Hitomi Chiba |
| 徳田 紗耶果 Sayaka Tokuda | 高橋 誓子 Seiko Takahashi |
| 佐藤 薫 Kaoru Sato | 柳本 夏希 Natsuki Yanamoto |
| 五十嵐 真 Makoto Igarashi | 吉本 咲葵 Saki Yoshimoto |
| 武内 陶子 Toko Takeuchi | 坂内 歩美 Ayumi Bannai |
| 藤矢 晴輝 Haruki Fujiya | |